人工物と自然のものとの調和を考えることが重要です。

重要なことは人工物と自然のものとの調和を考えることです。
本来日本の住居は自然を含めた「外部」があってこその住居でした。
ですが現在の住居は外部から隔絶された空間として、
住居が建っています。
そこにはかつてとれていたバランスが失われているようにも感じます。
現在騒がれているような地球環境の変化も考慮した上で、
自然のもののもつ本来の力を引き出し、
かたや進んだ科学や技術との調和を考えることが
必要なのではないでしょうか。
僕ら建築家やデザイナーにできることは、
新しい素材を用いて新しい空間をつくることです。
一方、僕らの側から新しい素材への要求を出していくことも、
実は使命なのかもしれません。

建築学科 教授
宮下 勇
Isamu Miyashita

デザインを通じたコミュニケーション。

異文化の人々とデザインを通して
コミュニケーションを図るにはどうしたら良いのか、
ということは学生の頃からのテーマでした。
皆さんにも、自分のデザインが相手にどのように伝わるか常に考え、
相手の目線に立って物事を考えるようにしてもらいたいのです。
それは目線を下げるということではなく、
別の目線を持つということです。
異文化と遭遇したときに生じる様々な思いを乗り越える一つの方法は、
「僕がこの国で生まれたら」ということを想像することです。
日本の価値基準で考えると非合理に思えてしまうことが
多々ありますが、想像することによって大半が合理的に思えてきます。

工芸工業デザイン学科 准教授
伊藤 真一
Shinichi Ito